

初年次教育の取組

一 文部科学省 「大学における教育内容等の改革状況について（調査）」より一

初年次教育とは、高等学校から大学への円滑な移行を図るとともに、在学中の教育効果を高め、大学での学問的・社会的な諸条件を成功させるべく、主として新入生を対象に作られた総合的教育プログラムです。高等学校までに習得しておくべき基礎学力を補完する補習教育とは異なり、新入生に最初に提供されることが強く意識されたもので、1970年代にアメリカで始められ、国際的には「**First Year Experience**（初年次体験）」と呼ばれています。

初年次教育として次のような取組を行うことが求められています。

- a レポート・論文の書き方等の文章作法を身につけるためのプログラム
- b ノートの取り方に関するプログラム
- c プレゼンテーションやディスカッション等の口頭発表の技法を身につけるためのプログラム
- d 学問や大学教育全般に対する動機づけのためのプログラム
- e 論理的思考や問題発見・解決能力の向上のためのプログラム
- f 将来の職業生活や進路選択に対する動機づけ・方向づけのためのプログラム
- g 社会の構成員としての自覚・責任感・倫理観育成のためのプログラム
- h メンタルヘルス等、精神的・肉体的健康の保持に関するプログラム
- i 学生生活における時間管理や学修習慣を身につけるためのプログラム
- j 大学内の教育資源（図書館を含む）の活用方法を身につけるためのプログラム
- k 自大学の歴史等を題材とした、自大学への帰属意識の向上に関するプログラム